

風紋

vol.49 2016 / Spring

鳥取大学広報誌 FU-MON

特集

女性が輝く 鳥取大学へ

社会
貢献

カニ殻由来の新素材
「キッチンファイバー」の製品化を目指して

話題の
研究

医学の発展のためには倫理はじゃま？

Student's
Voice

鳥大学生対談 学寮で生活する学生編

学びを
支える

大学教育支援機構 教育センター

新任教員
紹介

農学部

女性が輝く鳥取大学へ

平成23年10月、鳥取大学は「男女共同参画推進室」を開設した。推進室は、学内の誰もが家庭・家族を大切にしながら職務や勉学に励むことができる環境を築こうと、新たな取り組みを次々に展開。そんな支援に一番背中を押されたのは、キャンパスの女性たちだ。自分らしい生き方を拓き、彼女たちは今まぶしく輝き始めている。

真の男女共同参画を目指して

専門部署を開き、支援を見直す

“男女共同参画社会を築く”という国のビジョンが示され、平成11年6月に「男女共同参画社会基本法」が制定されて以降、世の中では様々な取り組みが行われてきた。わたしたちの意識はこの10数年で少しずつ、しかし大きく変わってきたのではないだろうか。

ここ鳥取大学でもそうした国・社会の動きを受け、女子学生や女性教職員の増加に伴う環境整備、出産・育児に対する支援制度などを整えてきた。しかし、“それは本当に十分であるのか？”の検証と、さらなる充実を図るため、平成21年10月に「鳥取大学男女共同参画推進委

ロゴマークは、男女が手を取り、支え合うイメージを表現。愛称の「Pear-Pair (ペアペア)」は、鳥取県の特産物である梨(pear)と、夫婦や上司・部下などの組み合わせ(pair)を合わせた造語。

研究支援	女性育児支援	男性育児支援
専門的な知識・技術を活かしたい	妊娠・出産・育児期に利用できる制度	男性の育児参加に利用できる制度
介護支援	相談窓口	進路選択支援
介護が必要なときに利用できる制度	教職員のための相談窓口	企業見学や交流会、学外講師セミナー

員会」を設置。学内の現状を調査し、何度も話し合いが重ねられた結果、条件整備も意識改革もまだまだ不十分であるとして、平成23年10月に「男女共同参画推進室」が開設されることとなった。

能勢隆之前学長から男女共同参画推進室長の任命を受けた細井由彦理事(当時は副学長)は、「私はこの分野の専門家でも何でもないし、どちらかというと向いていないタイプ。室長をと言われ正直驚きました」と、当時は振り返る。しかも、当初推進室に配属されたのは自分と事務員の2人だけ。右も左も分からず、予算すらない状態からのスタートだった。

HP・パンフレットに情報を掲載 男女共同参画推進を「見える化」

最初の仕事は支援制度をつくること。細井室長はまず、文部科学省の科学技術人材育成補助事業である「女性研究者研究活動支援事業」に手を挙げた。「研究活動支援」「ライフイベントとの両立支援」「女子学生のキャリアデザイン支援」「啓発活動等」という4つの柱を立て、事業計画を作成。平成24〜26年度にわ



実施したイベントのチラシ

たる事業が採択され、星川淑子専任准教授(現工学研究科教授)が着任、推進室は本格的に動き始めた。

時代の流れは男女共同参画社会に向かっているとはいえ、そのイメージは誰の頭にもぼんやりとしか映っていない。そこで推進室はホームページをリニューアルし、基本理念や行動計画、支援内容等を掲載。また、パンフレットやワークライフバランス応援ハンドブックを作成、全職員に配布し、目に見える形にして教職員の意識を高めていった。啓発活動として講演会・パネル展示等も実施。どの会にも多くの人が集まり、認識の高まりが感じられたという。

取り組みが評価され、男女格差のない職場環境づくりに取り組む企業に対する制度「鳥取県男女共同参画推進企業」の認定を受け、さらに平成27年10月には「輝く女性活躍パワーアップ企業」にも認定された。平成26年度から推進室の専任教員を務める澁谷容子准教授は、「女性職員は増えていますが、管理職はまだ少ない。まずはあきらめないでキャリアアップの意識を持ってもらいたい」と、女性活躍支援に意欲を見せている。



平井伸治鳥取県知事(左)から「輝く女性活躍パワーアップ企業」登録証の交付を受ける細井由彦室長(右)

行政の声

「輝く女性活躍パワーアップ企業」とは

鳥取県認定の「男女共同参画推進企業」のうち、女性の管理職登用やキャリア形成など女性活躍のための自主宣言・行動計画を策定し、実践する企業のことです。



すずき ゆかり
鈴木 由香利 課長
鳥取県元気づくり総本部
元気づくり推進局
女性活躍推進課

録されており、鳥取大学もそのうちの一つです。鳥取大学では、スタンダードな就業支援制度はもちろん、育児・介護等により研究活動時間の確保が困難な研究者に研究支援員を配置する制度や、医学部附属病院では敷地内に保育所を設けるなどしておられます。先進的な取り組みが多い上、定めるだけに終わらず実際に活用され喜ばれているところが高く評価されています。「リケジョ」という言葉が話題になったように、理系分野の女性の活躍は社会的に非常に求められているところです。毎年多くの優秀な学生を輩出する鳥取大学に、地域社会は大きな期待を寄せています。女性研究者や学生たちが磨き上げたスキルを駆使して世の中で大いに活躍していけるよう、今後ますますキャリア支援、人材育成に力を注いでいかれることを願っています。

鳥取県では、県民や事業者の皆さまと連携しながら男女共同参画社会の推進を図っています。平成15年度には「鳥取県男女共同参画推進企業認定制度」を設け、子育てや介護のサポート、セクハラ防止、個々の能力が十分発揮できる環境など、男女を問わず働きやすい職場づくりに積極的に取り組む企業の認定も進めてまいりました。その成果もあつてか社会の意識は徐々に変化し、近年では活躍する女性の姿が多く見られるようになっていきます。そこで鳥取県では管理的地位に立つ女性の割合に着目し、女性職員のキャリア形成支援を進める体制を整えたり管理職に登用するといった取り組みを意欲的に行い、女性がさらに輝ける環境を築く事業者を支援する「輝く女性活躍パワーアップ企業登録制度」を平成26年11月より開始しました。現在40以上の企業が登

キャリアを積み重ねた女性研究者・学生輩出に期待しています。



しづたに ようこ
澁谷 容子 特命准教授
男女共同参画推進室

略歴
2010年 日本学術振興会 特別研究員
2012年 鳥取大学産学地域連携推進機構 プロジェクト研究員
2012年 京都大学防災研究所沿岸災害研究分野 特定研究員
2012年 同 特任助教
2015年 鳥取大学男女共同参画推進室 特命准教授

専門 海岸工学
趣味 砂集め/ジグソーパズル



ほそい よしひこ
細井 由彦 理事・副学長
男女共同参画推進室長

略歴
1991年 鳥取大学工学部 教授
2008年 鳥取大学工学研究科 教授
2011年 鳥取大学 副学長
2011年 鳥取大学男女共同参画推進室 室長
2013年 鳥取大学 理事・副学長

専門 環境工学
趣味 ランニング

大学での自分と 家庭での自分

どちらも大切に 生きたい

育児との両立に悩む研究者を 「研究支援員」が手助け

女性研究者に対する支援の中でメインとなる取り組みが「研究支援員制度」だ。出産・育児、介護等ライフイベントのため研究時間が十分に取れない研究者に対して、アルバイト職員等を雇用し「研究



「孤立しがちな女性研究者をつなぐ役目も担いたい」と語る澁谷准教授。

プし、正社員として企業に入社した支援員もいるそうだ。

水面下にひそむ介護問題

育児に比べて数はそう多くはないものの、介護を理由に研究支援員制度を利用する者もあった。細井室長は「介護に悩む職員の把握はなかなか難しい。しかしアンケート調査では介護セミナーをやつてほしいという声があり、困っている人は結構いるはず」と潜在的ニーズを予想している。要望を受けて、平成27年2月に介護セミナーを実施。参加者からは「介護制度がよく分かり役に立った」との感想が寄せられ、次回の開催を願う声も大きかったという。

「介護は終わりが見えません。また、大学の教員は県外出身者が多く、遠距離介護になる可能性も。育児とは違う問題がひそんでおり、これからの課題です」と澁谷准教授。情報提供に努めると同時に、推進室に設けている相談窓口を訪れてもらいたい、と勧める。

夏の学童保育で子どもも笑顔！

平成27年夏は、初めての試みとして夏休み中の学童保育「とりりんサマースクール」を実施した。試験的な開設で、9日間だけのオープン。しかし募集には、1年

支援員」として配置、その研究を支援していこうというもの。女性研究者のみならず、男性研究者にも対象を広げており、1年間の利用者は20人前後。育児による希望が多く、子育て世代に対する大きな助けとなっている。

研究者たちの日常は実に忙しく、日中は学生への講義や研究指導、その合間を縫って自身の研究を進め、結果が出たらデータを集計したり論文をまとめたり。その間も雑務は容赦なく襲い、時間的余裕はほとんどない。研究支援員が配置されることでデータ入力や書類整理、実験準備や片付けといった作業を手伝ってもらえることができるのは、時間的・精神的負担を大きく軽減するのだ。「子どもとの時間が取れなくなった」「研究の遅れや中断が少なくなり、ストレスが軽減した」と喜びの声が上がっている。「昇進されたり研究費を獲得したという先生もおられ、支援の手応えを感じています」と、一人も成果に笑顔を見せる。

メリットは研究者だけでなく、支援する側にもあるとか。「支援員が学生の場合は、自習や技術を習得する場になります。また、幼い子どもを持つ主婦の方には勤務時間が短いのが好条件になっているようです。研究者と支援員が子どもを持つ母親同士、お互いにいい相談相手になっているという話も聞きます」と澁谷准教授。実験の補助作業でスキルアップ

生から6年生まで34名の児童の参加希望が。そのうち、24名の保育を行った。

保育は教員と地域学部地域教育学科の学生、ボランティア等で行い、午前と午後1回ずつ学習時間を設定。また、学内の教職員から児童が楽しめるような体験プログラムを1日1つ提供してもらい、化学実験や工作、豆腐づくり、絵がきづくり、きのこセンターや乾燥地研究センター等大学の関連施設見学などを行った。なかなかできない体験に大喜びし、帰宅してから今日の出来事を家族に話して聞かせる児童がたくさんいたそうだ。

保護者の満足度も高く、「来年度も」「常設で」という要望も多かったとか。開設に尽力した澁谷准教授は、「プログラムの充実もあって予想以上の成果でした。場所や人材の問題があり常設は難しいところですが、同規模のものを今年度もやりたいと考えています」と、好評に込めている。



サマースクールでの絵はがきづくりの様子。体験プログラムはどれも児童に大好評だった。

制度利用者の声

とみおか ゆきこ
富岡 幸子 准教授
農学部共同獣医学科応用獣医学講座

略歴
2000年 北海道大学獣医学部卒業
2004年 同大学遺伝子病制御研究所
2005年 同大学大学院獣医学研究科 博士(獣医学)取得
2014年 鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通 感染症疫学研究センター 特命助教
2015年 鳥取大学農学部共同獣医学科 准教授
専門
実験動物学/獣医病理学/ウイルス学
趣味
自然散策/自転車

気持ちに余裕が生まれ、
仕事にも育児にも前向きに



ていただき、標本作製や器具の洗浄、データ入力といった作業を手伝ってもらっています。標本作製は、動物の組織を約5マイクロメートルの厚さに切ってスライドグラスにのせ、染色して顕微鏡標本にするというもの。何百枚と作っていたら実験やデスクワークの時間がなくなってしまうので、とても助かっています。女性で文系の方なのでこういう経験はなかったのですが、コツコツと丁寧に仕事をされる方で、すぐに慣れたようです。

制度のおかげで、実験や論文作成にじっくり取り組むことができ、少しずつですが研究成果を発表できています。また、子どもと過ごす時間も確保できています。何より精神的な余裕を持って仕事にも子どもにも向き合えるのはすごいメリット。とても有意義な制度だと実感しています。今年娘は小学校に入学し、どんどん世界が広がっていく年頃。上手に手助けすると同時に、一緒に成長していきたいと思っています。これからも制度を利用させていただけると、とてもありがたいです。

共同獣医学科で実験動物学の教育研究にかかわり、遺伝子改変動物を用いた疾病発現メカニズムの解明や、新しい治療方法の探究といった研究に取り組んでいます。平成26年4月に北海道から鳥取大学に赴任しました。夫も同じ学科で獣医病理学の教員をしており、私より半年早く赴任。私と5歳の娘が後から追いかけるかたちで鳥取にやってきました。

同年10月から「研究支援員制度」を利用しています。制度のことはホームページで知り、すぐに申請しました。娘は当時大学近くの保育園に通っており、できるだけ18時までにお迎えにいくようにしていました。それだけに日中の仕事時間はすごく大事。研究支援員の方に週3日、9時から15時まで来

研究支援員制度

出産・育児・介護などにより研究活動を行う時間の確保が困難な研究者に研究支援員を配置することで、研究者のキャリア形成や継続を手助けする制度です。

事は増えるのに割ける時間は減るといった状態だったので、支援員の手助けで「時間」を得られたことが一番のメリットでした。制度を利用してきて本当にありがたかったですね。平成27年度は日本人の大学院生にお願いして、平成28年2月に出版した本の編集作業を助けてもらいました。

実は私、下の娘が生まれたときに約3週間の「育児休業」を取得したんです。男性の取得はあまり前例がなく、若干驚かれました。妻まで「本当に取るの?」って(笑)。取得予定日の3~4カ月前から事務に相談し、休業中の授業の調整など事前準備が少し大変でしたが、この3週間は、産後の妻も子どもたちも安心して過ごせた大事な時間だったと思っています。

育児休業制度

育児のために、最長子どもの3歳の誕生日の前日まで休業することができます。男女共通にご利用可能な制度で、男性の積極的な育児参加も応援しています。

我が家は、妻も大阪の大学で教員をしており、週4日大阪に通勤しています。朝一番のスーパーはくにとに乗って出かけ、帰宅も夜遅くなるので、妻の出勤日は7歳と2歳になる2人の娘のお世話は私の担当。ですから、この「研究支援員制度」には大変助かっています。

私の研究内容は、日本と東南アジアにおける農山村の地域振興に関するもの。ベトナムの農山村で住民参加型のワークショップを展開し、地域に根付く課題をどう解決していくかなどのテーマに取り組んでいます。平成25年度から支援員制度を利用しており、最初の2年はベトナムの研究に携わることを手伝ってもらいました。支援員は、ベトナムから本学の大学院地域学研究科に留学している大学院生。仕事は主にベトナム語によるメールのやりとり、アンケートや資料の翻訳、ワークショップの準備などです。

ちょうどこの頃大きなプロジェクトが始動したのですが、第2子誕生と重なり、仕

妻と協力し合って 研究と育児を両立



つつい かずのぶ
筒井 一伸 准教授
地域学部地域政策学科公共政策学講座

略歴
2003年 愛知県北設楽郡豊根村役場 地域間交流支援専門研究員
2004年 大阪市立大学大学院文学研究科修士(文学)
2004年 鳥取大学地域学部地域政策学科 講師
2006年 ベトナム国家大学(ハノイ理科大学) 地理学部 客員研究員
2011年 鳥取大学地域学部地域政策学科 准教授
専門
農村地理学/地域経済論
趣味
落語の観覧/旅行



「職員ひとりひとりが輝くために」と語る谷口美也子副センター長

推進室設立からずっと続いている事業の一つに「女子学生のための企業見学会」がある。毎年9月中旬頃に1泊2日で、研究職・技術職を雇用している企業2社を訪問するというもの。細井室長は「この推進室で手がけた最初の事業であり、本学のオリジナル。女子学生にキャリア形成のマインドを持ってもらいたいと企画しました」と目的を語った。ただ単に工場や研究所を見学するだけではなく、第一線で活躍している女性研究者・技術者との交流が持たれ、研究内容や男性が多い職場の様子などを直接聞くことができる貴重な機会となっている。

仕事をあきらめない支援

全職員が生き生きと活躍する病院を目指して

医学部附属病院ワークライフバランス支援センターは、職員が誇りと夢を持って輝き続ける病院を目指そうと、平成22年4月15日に設置されました。病院職員は日々「患者さまのため」を第一に考えて働いていますが、当センターは「職員の働きやすさ」を支援する部署です。設立当初、女性医師に聞き取り調査を行ったところ、「更衣室がない」「トイレや当直室が汚い」といった不満が続出。勤務環境の悪さは、せつかく積み上げたキャリアを志半ばであきらめる原因にまでなっていました。早速アメニティ環境を改善。そして、子育て・介護支援、

夕食持ち帰りサービス、キャリア支援など様々なサポートを確立していきました。女性医師に対してだけでなく、「男女・職種を問わず、みんなが幸せを感じられる職場づくりをする」ことで、優秀な人材確保、質の高い医療の提供につながっています。

仕事に誇りを持ち、自分のワークライフバランスを描く

当センターは、「子育て介護の両立支援」「働きやすさ支援」「キャリア支援」「メンタルヘルスサポート」「啓発活動」「モニタリング」と、主に6つの柱を軸に活動しています。子育て支援では敷地内に保育所を設置、24時間保育を行っています。平成28年1月からは小学生対象の夜間一時預かりとお泊まり保育も開始しました。近年は介護支援のニーズも徐々に増えており、平成27年度は介護セミナーを3回実施、情報提供や不安解決の一助になること



神崎晋センター長(中央左)、谷口美也子副センター長(中央右)とスタッフ



「働きやすさ」を築くための多様なサービスとサポート

附属病院では、ワークライフバランス支援センターが中心となって、それぞれの働き方や生き方を尊重するため、様々な施策を行っています。

子どもが発熱!でも、今日は会議が...

子どもの病気時は、病児保育が可能です

附属病院の敷地内に設置している「すぎのこ保育所」では、24時間保育や病児保育を行っています。「今日は仕事を休めない!」といった日でも安心です。

夜勤時、子どもを1人にできない...

夜間・深夜勤務に対応した学童保育

「夜勤時に小学生の子どもを預けられる場所がない」という切実な声に応え、小学1~6年生対象の夜間一時預かり&お泊まり保育を開始。学童期の子育てもサポートしています。

帰宅後の夕食づくりが大変...

幼児食にも対応! 電話1本で、自宅に夕食を

「仕事が忙しく、夕食づくりが大変」との声を受け、「夕食持ち帰りサービス」を導入。電話1本で夕食や食材が職場・自宅に届けてもらえるため、家庭での時間にゆとりが生まれます。



その他にも、職員の希望に応じて以下のような制度や設備を整えています。

- 「学びたい!」に応えた院内の語学教室
- 外部の心理相談員によるメンタルヘルスサポート
- 更衣室や授乳スペースアメニティの充実
- 育児や介護、職場環境に対する相談窓口
- 研修・トレーニングで医師キャリア継続を支援

女性が輝けば 大学はもつと光を放つ



昨年の企業見学会の様子。女性研究者の「生の声」に自分の将来を重ねて聞き入る。

「研究者の卵」育てる企業見学

大学発展のカギを握る女性活躍

平成24年から26年まで3年間取り組んだ文部科学省の補助事業が終了し、平成27年度からは自己財源で事業を進めている。「財政的に厳しくこれまでと同レベルの支援がどこまでできるかわかりませんが、補助要件の縛りがなくなり、間口は広げやすくなりました」と、細井室長は今後の構想を膨らませているところだ。女性研究者だけでなく、これまで支援が手薄だった女性事務職員や男性への支援も計画したいという。

「女子学生に限定することで、結婚や出産・子育てを経た後の職場復帰や、男性社会の中で働きづらいのではないかと、女性特有の不安や疑問の解消につながっています。生の声を聞くことで、自分のキャリアデザインに生かしてほしいですね」。自身も工学の研究者である澁谷准教授は共感し、女子学生たちにエールを送っている。

平成24年から26年まで3年間取り組んだ文部科学省の補助事業が終了し、平成27年度からは自己財源で事業を進めている。「財政的に厳しくこれまでと同レベルの支援がどこまでできるかわかりませんが、補助要件の縛りがなくなり、間口は広げやすくなりました」と、細井室長は今後の構想を膨らませているところだ。女性研究者だけでなく、これまで支援が手薄だった女性事務職員や男性への支援も計画したいという。

澁谷准教授は、実際の支援だけでなく男女共同参画に対する意識向上にも着目しており、「やはり男性の意識が変わっていかないと、女性の頑張りだけでは限界がある」と話す。「男性が育児休暇を取ると、人生観が180度変わるといわれます。そういう事例が増えて、男性の意識が女性に輝いてもらうためにはどうしたらいいかと考えられる方向に変わると面白いことになるかも」。生き生きと輝く女性たちはきっと、この鳥取大学の未来をも輝かせることだろう。

鳥大生の声



「女子学生のための企業見学会2014」に参加して

開催日 平成26年9月25~26日
訪問先 サントリー(大阪府/山崎蒸留所・水科学研究所)、神戸製鋼所(兵庫県/神戸総合技術研究所)

「私には研究職なんて無理かも」。見学前はそんなふうに思っていました。「朝から晩まで研究漬け」というイメージがあったし、結婚・出産したら続けられないのではという不安も。でも実際に女性研究員の方のお話を聞くと、どなたも明るくハツラツと働いていて、男女格差もないようでした。また、自分とさほど年が変わらない方の活躍を目の当たりにして「ポジティブに頑張れば私にも可能性はあるんだ」と希望を抱くこともできたんです。メディアやネットの情報だけで判断するのではなく、直接本人の口から実体験を聞くことは大事ですね。この企業見学会は、費用がそれほどかからず有名企業に行ける上、バスが本学発着でも便利。いい機会になるので、女子学生の皆さんはぜひ思い切って参加してみてください。



よしだ さおり 大学院工学研究科 吉田 早織さん 化学・生物応用工学専攻1年

女性研究者・技術者の職場を実際に見ることで就職時の参考になるのではと思い、3年生のときに企業見学会に参加しました。

両企業とも工場の様子や研究内容に大変興味を持つことができたのですが、印象的だったのは、働く女性たちの具体的な職場環境や、結婚・出産といったこれまでの体験談。サントリーでは女性研究者の方が、希望どおりの部署に配属されなかったが、いかにやりがいを見つけ楽しく仕事をするかを実践しているという体験を、神戸製鋼所では産休・育休の取得率を示しながら仕事と家庭の両立支援について説明していただきました。

キャリアを積むことはもちろん、女性としての人生も大事にしながら働くことができると分かり、研究職に対する印象が変わりました。

みやざき ゆうか 大学院工学研究科 宮崎 友花さん 化学・生物応用工学専攻1年

楽しく研究する姿に共感



社会 貢献

いふく しんすけ
伊福 伸介 准教授

大学院工学研究科
化学・生物応用工学専攻

略歴

2005年 京都大学大学院農学研究科修了
博士(農学)
2006年 京都大学生存圏研究所 博士研究員
2007年 プリティッシュコロンビア大学
博士研究員
2008年 鳥取大学工学研究科 講師
2011年 同研究科 准教授

専門 高分子化学/天然材料科学

趣味 園芸/料理/温泉

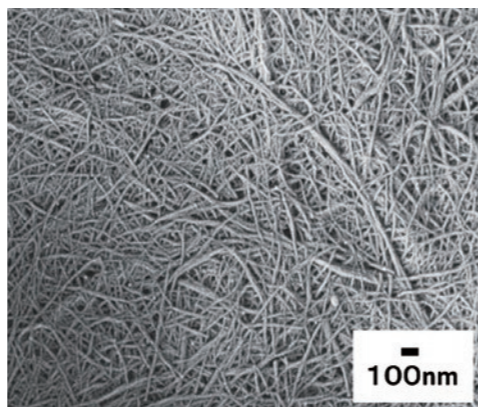


写真2 毛髪の1万分の1の極細繊維「キチンナノファイバー」

で粉碎すると幅が10ナノメートルの非常に細い繊維が取り出せます(写真2)。10ナノメートルは髪の毛の太さのおよそ1万分の1のサイズです。ところが、1%の濃度のキチンナノファイバー分散液を0.5ミリリットル取り出した時、その中に含まれる繊維の長さは地球1周分にも相当します。キチンは昆虫の外皮やキノコにも含まれており、地球上にたくさん存在します。ですが、キチンは水に溶けないため加工がしにくく、使い道がほとんどありませんでした。一方でキチンナノファイバーは水によく分散してジェル状になるので、他の素材と混ぜたり用途に応じていろいろと加工が出来るようになりました。

きっかけは「鳥取らしい仕事を」

鳥取大学に着任前はバンクーバーで研

カニ殻由来の新素材 「キチンナノファイバー」の 製品化を目指して

豊富な水揚量を誇る「蟹取県」

鳥取県の特産品は二十世紀梨や砂丘らつきょう、大山地鶏などいろいろありますが、中でもカニが有名で、毎年解禁されると多くの観光客が訪れます。カニの水揚量の全体に占める割合は46・4%(2013年農林水産省調査)にもほり、昨年度は期間限定で県名を「蟹取県」に変更してアピールしました。鳥取県の西部に位置する境港は『ゲゲの鬼太郎』の水木しげるロードが有名ですが、国内有数のカニの水揚げ基地として知られています。そこでは、ズワイガニの他、茹でる前から赤い「ベニズワイガニ」もた

日本屈指のカニの水揚げ基地「鳥取」。その豊富なカニ殻から抽出した「キチンナノファイバー」は様々な潜在能力を有し、工業製品・医療品・化粧品・食品などあらゆる分野での応用が期待され、実用化に向けた研究が進められています。

くさん取れます。ベニズワイガニの用途は加工品が多いため、漁港の近隣には水産加工会社が集積しています。ベニズワイガニの漁期はズワイガニよりも長く10カ月もの間、水揚げされます。ですから、長期にわたって大量のカニ殻が廃棄物として発生するわけです。

その細さ髪の毛の1万分の1
用途多様な「キチンナノファイバー」

私はカニ殻の主成分である「キチン」をナノファイバーという極細の繊維で抽出することに成功し、その実用化を進めています。製法はとても簡単で、カニ殻を葉

期待高まる新素材の潜在能力

私がキチンナノファイバーという特殊な繊維を取り出すことができたのは、カニがもともとナノファイバーを作っているからです。鋼鉄並みと言われる強いキチンナノファイバーを殻に蓄えて、外敵から身を守っているのです。ですから、キチンナノファイバーをプラスチックに混ぜると、透明性やしなやかさをそのままに、大幅に強度をアップできます。また、熱をかけてもほとんど変形しないので、将来は曲げられるスマートフォンやディスプレイに使えるかもしれません。鳥取大学のような規模の小さい大学は学部間の垣根が低く、お互いの得意分野を活かした共同開発がしやすい環境にあります。また、共同獣医学科が近くにあるため、臨床試験によってナノファイバーのいろいろな生理機能を検証できることも大きな強みです。例えば、キチンナノファイバーを服用すると、腸の炎症が緩和されたり、善玉菌が増殖したり、脂肪やコレステロールを減らせることが明らかになってきました。また、肌にナノファイバーのジェルを薄く塗布すると、表皮で保護膜ができて肌の水分の蒸散を抑えたり、肌の弾力に関わる膠原繊維(コラーゲン)を増やすことができます。さらには、農作物に撒くと免疫機能が高められて病気にかかりにくくなりますし、パンなど



写真3 旅館から回収したズワイガニの甲羅



写真4 キチンナノファイバーを配合した敏感肌用化粧品

小麦製品に配合すると良く膨らんだり、食感を改良することもできます。この様にキチンナノファイバーの機能が次々と見つかり、私自身もその潜在能力の高さに驚いています。これはまさに共同研究のおかげです。今後も多くの研究者にこの新素材に触れてもらい、未知の機能を上手に引き出していくことが私の使命であると考えています。昨年は肌に対する機能を活かしてキチンナノファイバーを配合した敏感肌用化粧品が全国販売されました(写真4)。また、海のお恵みの新素材として皆さんに親しんで使用してもらえよう、「マリンナノファイバー」という商標を登録しました。今後、化粧品や健康食品など製品化が進んで、「カニ殻が足りなくて困っている」と言われるくらい普及できたら最高ですね。



写真1 カニ殻(左)と抽出したキチン(右)



医学の発展のためには 倫理はじやま?

新薬の開発や医療用人工知能を使ったコンピュータ診断の研究など、医学はめざましく進歩しています。しかし他方で、新しい科学技術が引き起こす倫理的・法的・社会的問題が提起されるようになってきました。医学の進歩による利益を享受すると同時に、突きつけられる問題にみんな向き合っていくことが求められています。

医学研究の光と影

みなさんは医学研究についてどのようなイメージをもっていますか。新聞やテレビで、病気に対する新しい治療の可能性が発見されたと報道される時には、医学に対して、病気の苦しみからわれわれを解放する明るいイメージを抱くのではないのでしょうか。2012年に京都大学の山中伸弥先生がiPS細胞の研究によってノーベル賞を受賞しましたが、このような医学研究は明るい未来を予想させます。しかし過去を振り返ってみると、医学研究にはネガティブなイメージがつきまといっていました。例えば、ナチス・

ドイツや旧日本軍による人体実験(II人を対象とした研究)は、医学研究の暗黒面だといえるでしょう。

とはいえ、人体実験は、現在の医学においても不可欠です。まだ誰も試したことのない薬の候補物質は、誰かが試して使ってみなければなりません。そのために、動物実験や、実際に人に対して使ってみる治験・臨床研究を実施して、安全性と有効性を科学的に検証する必要があります。このような過程が必要なので、新しい科学上の発見が、実際に臨床で使えるようになるにはかなりの年月と多くの参加者が必要です(表1)。かといって、新薬開発のスピードアップのため

まる ゆういち
丸 祐一 准教授

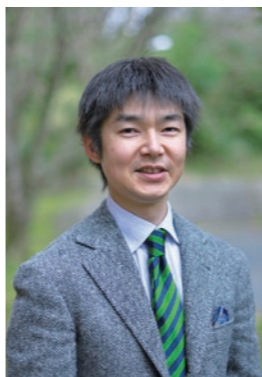
地域学部地域政策学科
公共政策学講座

略歴

1996年 鹿児島大学法文学部卒業
2006年 千葉大学大学院社会文化科学研究科
単位取得退学
2010年 千葉大学医学部附属病院 特任助教
2012年 東京大学医科学研究所 特任助教
2014年 鳥取大学地域学部地域政策学科
准教授

専門 法哲学/生命倫理

趣味 ファッション/トロンボーン



に、患者の同意がないのに研究対象にしたり、安全性も有効性も分かっていない薬候補をあたかも病気に効くかのように説明して研究参加を促したりといったことが行われるようでは、医学研究への信頼が失われてしまい、研究に参加してくださる方がいなくなり、その結果、医学研究それ自体が実施できなくなるでしょう。倫理的に研究を行うことで信頼を得ることが、医学の発展の近道なのです。

なぜ安心して薬を使うことができるのでしょうか

私は、人を対象とした医学研究の倫理について研究しています。社会の多くの人が医学の発展によって健康で過ごせるようになるという恩恵を享受することができます。おそらく、医学の発展それ自体に反対する人はいないのではないのでしょうか。しかし発展のためには誰かが医学研究に参加して、新しい治療法が本当に安全なのか有効なのかを確かめなけ



ればなりません。私たちが薬を安心して飲むことができるのは、このような医学研究に参加してくださった多くの先人のおかげなのです。ここに倫理的な問題があります。医学研究に参加しない多くの人たちは、参加してくださった方に「ただ乗り」しているのではないのでしょうか。つまり、多くの人は医学研究のリスクを引き受けることなく利益だけを享受しています。だから、医学研究に参加してくださる人たちが負担するリスクをできるだけ少なくし、できるだけ利益があるようにするにはどうすればよいのかをみんなで考える必要があるのです。

人工知能を活用した 医学の発展と社会の準備

最近では、人工知能(AI)を使った医療についての研究が始まっています。将棋や囲碁では、人工知能がこれまでの棋譜データを学習し、「神の一手」を見つけ出す活躍が伝えられています。医療においても人工知能が医学の膨大な研究データを学習し、個々の患者に最善の治療法を見つけ出すことが期待されています。現在の医学研究は、人が読めるような情報量を遙かに超える情報を生み出しています。遺伝学者で情報科学者の宮野悟先生(東京大学医科学研究所)によれば、ある医学論文のデータベースには



2015年だけで約360万件の論文が登録されており、紙で積み上げると80メートルほどの高さになる、とのこと。このペースだと、2050年には大気圏外(高度100キロメートル)に達する高さになってしまうそうです。人工知能にこれらの情報を読ませて、医師による診断を支援させようというわけです。

このような人工知能を使った医療においても検討すべき問題があります。例えば、人工知能には患者の遺伝情報や診療情報をインプットする必要がありますが、インプットした情報から人工知能は予想もしなかった診断をすることもできません。その事実を医師は患者にどうやって伝えるべきでしょうか。人工知能の診断に沿って医師が治療を行った際に、それが誤診だったら誰がどのような責任に問われるのでしょうか。人工知能にインプットされた患者の個人情報、その患者のためだけに使われるのではなく、世界中の様々な患者のために利用されるこ



とになりますが、個人情報をもっと自由に利用してもよいのでしょうか。検討しなければならぬことはたくさんあるのですが、科学技術の進歩は待ってくれません。まだ基礎的な研究が行われている段階から、その科学技術が将来応用される際にどのような問題が生じるかを検討し、社会がその問題にどのように対応すればよいのかを考えておく必要があります。

研究における 倫理の役割は何か?

倫理は、医学研究をストップさせるブレーキとしての役割もありますが、医学研究が間違った方向に進まないようにハズルをコントロールし、医学が迅速かつ円滑に発展することを促すものでもあります。医学研究が引き起こす可能性のある様々な問題を前もって検討し整理しておくことで、医学がスムーズに発展していきけるように手助けするのが私の仕事だと考えています。

Student's Voice

鳥大学生対談

学寮で生活する学生編

工学部
電気情報系学科2年
ませぎ ようへい
柵木 洋平さん
愛知県岡崎市出身



4Fのフロア長をやっています!

得意な料理はオムライス!

医学部
保健学科2年
ただうちりな
忠内 梨奈さん
愛知県豊橋市出身

近くに『仲間』がいるから心強いですね。

鳥取大学での新生活に
学生寮を選んだのはなぜ?

▼忠内 一番の理由はなんといっても寮費の安さですね。月1万7千円という低料金にはすごく助かっています。

▼柵木 大学の学生寮って二人とか三人部屋という場合がよくあると思うんですけど、鳥大の寮は一人部屋なのがとても魅力的でした。経済的な面はもちろんですけど、僕にはそこが大きかったですね。それに最近改修されたという話を聞いていたから、ぎっときれいなはずという期待もあ

りました。

▼忠内 寮の玄関はオートロックで、セキュリティもしっかりしています。学生証をピッとかざしたらドアが開くので、最初は「おー!」って感動しました。そういう安全性の高さは母も気に入っていました。寮母さんがいらっしゃるのも安心ですよ。

▼柵木 入学式前でまだ学生証がないときは暗証番号を入力してロックを解除してただけで、ど忘れしちゃって寮から閉め出されたことがあったなあ(笑)。でも、訪問販売や変な勧誘などが来ることはないの、本当にいいですね。

初めてのひとり暮らしに
不安はありませんでしたか?

▼忠内 もちろん最初は少し不安でしたが、入寮後すぐに寮の先輩方が新入生歓迎会を開いてくださったんです。初めての鳥取、初めての寮生活、まだ友達もできてなくて心細いときだったから、とてもありがたかったですね。どこで買い物をするか、先輩がスーパーマーケットの場所を教えてくれたりして助かりました。

学生寮でよかったと思う瞬間

副ブロック長という役があります。男子寮には各階ごとに多目的に使える「ラウンジ」という共用スペースがあって、その管理がブロック長の仕事。あとは、寮長・副寮長と協力して新入生歓迎会の準備をしたりとかですかね。実は僕、1年のときに4階の副ブロック長をしていたんです。年に1回寮で防災訓練を行うんですけど、そのときには4階の寮生を避難場所に誘導し、逃げ遅れた人がいないか1部屋ずつドアをノックして確認したりしました。

▼忠内 寮生活のいいところは、すぐに友達と話ができること。電話やLINEで話すのと直接顔を合わせて話すのって、やっぱり全然違うんです。「調味料がない!」というときはすぐに友達から借りれるし、雨が降っていて外出が億劫なときも、外に一步も出ないで友達と会うことができます。2カ月に1回ぐらい仲のいい友達と集まって、ラウンジでお好み焼きやタコ焼きを作ったりもするんですよ。みんな忙しいからなかなか集まらないんですけど、ワイワイおしゃべりしながら過ごす時間は本当に楽しいですね。

▼柵木 僕も、友達4〜5人と部屋で焼肉パーティーをしたのがい思い出になっています。暑い夏の日だったんですけど、煙を外に出さないといけないからエアコンはかけず窓を全開にして、汗だくになりながら食べてました(笑)。すぐに友達と会うこともできるし、一人部屋だから自分のプライベートも大切にできる。その両方が味わえるのは学生寮の特権ですね。

寮生活・ひとり暮らしのコツは?

▼忠内 大学から寮までの間にスーパーマーケットがないのはちょっと不便だけど、Sマート、サンマート、マルイ、トライアル等々、自転車で行ける範囲にお店が

迎会が開かれました。おかげですぐに友達ができ、入学式は一緒に行ったんですよ。ホームシックになることなく楽しくひとり暮らしに慣れていきました。

▼忠内 そうそう。新歓で仲良くなってお互いの部屋を行き来するようになって、一緒に料理を作って食べたり。寮だと友達をつくりやすいし、ほかの学部の人と話す機会もできるので交友関係が広がります。

学生寮ならではのルールや
役割はありますか?

▼柵木 ルールはそんなにないですよ。コインランドリーについても洗濯物を入れっぱなしにしていると取り出されちゃうって言うことぐらいかな。多分寮母さんが、次に使いたい人のために出しているんだと思います。

▼忠内 女子寮では、洗濯物を本当に取り出されちゃう人はまれ。でもたまに「乾燥機に入っている洗濯物、出してもいいかな」って、寮のLINEグループで連絡が入ることがあります。

▼柵木 寮のLINE、男子にはないなあ。

▼忠内 女子は人数が少ないから。基本全員入っていて、LINEで「人が足りないから誰か手伝って」とアルバイトの紹介が入ることもあるんですよ。

▼柵木 役割は、寮の役員ぐらいかな。寮長・副寮長のほか、フロアごとにブロック長・

入寮期間が終了したら
再び新しい生活が始まりますね

たくさんあるので買い物の選択肢は結構多いです。

▼柵木 僕はイオンにも買い物に行きます。少し遠いけど、そこでアルバイトをしているので。何か買い忘れがあったとしても、近くにコンビニがあるから困ることはないですね。

▼忠内 以前友達が足を骨折しちゃって、大変そうだったので買い出しとか身の回りのことなどを手助けしたことがあります。ひとり暮らしだと、人に頼らないとどうにもならない瞬間、というのが必ずあると思うんです。今までは実家において親に頼っていたけど、いざひとり暮らししてみると、どういふうに人に頼ればいいのか最初は分からなくて。でも、友達がすぐそばにいる学生寮という環境だったことで、上手な頼り方が身に付いた気がします。

▼柵木 健康管理に気を付けることはもちろんだけど、生活面でも勉強面でも、身近に助けてくれる人をつくるということが大事なんじゃないでしょうか。先程の調味料を借りる話もそうですし、「コインランドリーで使う小銭がないから両替して」とか、ささいなことだけど僕も結構寮の友達には頼っていますね。

▼忠内 時にはお互いに気遣いが必要です。みんなで集まっていますから部屋でキーキー騒ぎすぎないとか、廊下では大きな声でしゃべらないとか、最低限のマナーを守るように気を付けています。





大学教育支援機構 教育センター長

ふじむら かおる

藤村 薫 教授

略歴

- 1978年 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了
1978年 日本原子力研究所 研究員
1994年 日本原子力研究所 主任研究員
1997年 鳥取大学工学部 教授
2013年 大学教育支援機構 教育センター長(兼任)

専門

流体力学(流れの安定性/分岐理論)

趣味

散策

地域や世界で活躍する人材育成を目指し 大学の教育体系を構築しています。

充実した大学教育を目指して

本学に置かれている「大学教育支援機構」は、入試・入学から在学中の教育・生活、就職活動まで、大学生活全般の充実を図るための組織です。入学センター、学生支援センターなど5つのセンターで構成されており、教育センターはそのうちの1つ。全学的な立場で、大学教育の円滑な実施や改善のための企画・開発、本学で学ぶ学生の教育支援充実などを目的に、4つの部門を置いてその役割を担っています。

「共通教育開発部門」では全学共通

教育のカリキュラム構築・運営、内容の改善など、「高等教育研究開発部門」では学士課程だけでなく大学院課程まで見据えた教育改善、教員のスキル向上等に取り組んでいます。

「外国語部門」は、グローバル人材育成も含めた英語・外国語の習得、異文化理解や国際感覚を身に付ける学習を展開。全学共通教育で健康スポーツ科目を担当する「健康スポーツ部門」では、運動・スポーツの実践に必要な技能や知識を養成するのみならず、地域における運動・スポーツ活動の支援に必要な技能や知識の養成も行っています。

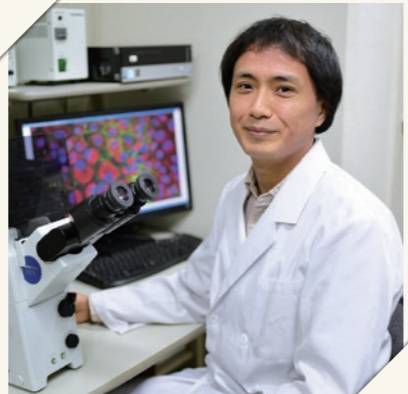
今こそ「教養教育」が大事

今、私たちが一番力を注いでいるのは、「教養教育の抜本的な改革」です。以前は国により一律の基準を定められていた大学の教養教育ですが、平成3年に実施された大学設置基準等の大幅な改正により各大学の自主性に委ねられました。大学の多様化に伴いそれぞれの特色を生かした教育研究を展開するための措置でしたが、大学の様々な工夫や取り組みにも関わらず、学生の興味関心は専門教育に移ってしまう結果に。昨今の多くの学生は教養教育に価値を見出せず、

教育センターつてどんなところ?
豊かな教養と幅広い視野を持つ
社会の中核となり得る人材を育てるために、
全学共通教育などの企画・運営・改善を行っています。



学びへの意欲が薄れています。しかし彼らが卒業後も地域や世界で活躍するためには、豊かな教養が必要不可欠だと私たちは考えています。そこで、現在教養教育の見直しを図っています。哲学・倫理学、心理学、芸術学、文学、法学、政治学、経済学、歴史学の8領域を「学部に関係なく必要な教養」と位置付けるなど、平成29年度以降の実施を目的に検討を重ねている真つ最中。学生たちを自信を持って社会へ送り出せるよう、しっかりとした教育体系を構築することが私たちの責務であり、掲げる理想です。



農学部共同獣医学科 基礎獣医学講座

わりた かつひこ

割田 克彦 准教授

略歴

- 2003年 北里大学獣医畜産学部獣医学科卒業
2007年 香川大学医学部医学科 助教
2008年 神戸大学大学院自然科学研究科修了博士(農学)
2011年 ビッツバーク大学医学部 客員研究員
2015年 鳥取大学農学部共同獣医学科 准教授

専門

解剖・組織学/がん細胞生物学/生殖内分泌学

趣味

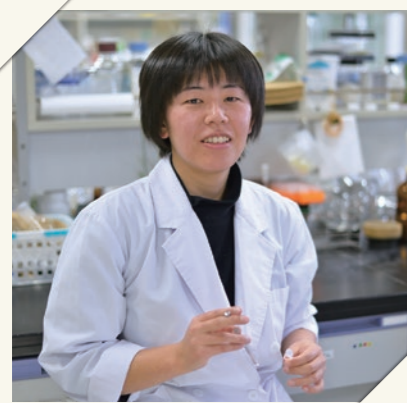
旅行/写真/一眼レフカメラ

マクロとミクロをつなぐ 解剖学のおもしろさを知ってもらいたい

平成27年4月より獣医解剖学教育研究分野の准教授に就任した割田克彦です。鳥取大学着任前は、香川大学医学部医学科に8年間勤務し、主に肉眼解剖を中心とする解剖学教育に携わっていました。解剖学は高等脊椎動物の構造と機能を理解する上で根幹をなす学問領域であり、生命現象を考察する上で無くてはならない極めて重要な分野であることは疑う余地がありません。一方で解剖学は、『なぜこんな形をしているのか、どうしてこんな機能を果たせるのか』、そんな素朴な疑問に原点があり、その歴史は古く、先の解剖学者たちが出した答えの蓄積からなる学問である、ということもできます。これまでの教育経験を活かし、鳥取大学ではヒトを含めた比較解剖学的な視点で身体構造のおもしろさ、奥深さを学

生に伝えていくつもりです。また、解剖学で扱う実習の内容には、一定の社会観・倫理観が付随してきます。この特性を生かし、解剖学教育を通じて豊かな人間性を備えた獣医師の育成、教育を行っていきたくと考えています。

光学顕微鏡や電子顕微鏡の開発以来、解剖学はマクロからミクロへと幅を広げ、また近年では分子生物学の分野も加わって、より高い研究レベルでの複雑な系の解明に迫っています。体の構造と機能、そして生命の奥深さを知り、ときにはその難解さを楽しみながら、学生時代に是非、生命科学のおもしろさに触れて頂きたいと思っています。獣医学における安定した発展を推し進める上で、大学教育は大きな基盤を成すとの認識のもと、これからの教育研究に励みたいと考えております。



農学部生物資源環境学科 生物資源科学講座

うえの こelmi

上野 琴巳 講師

略歴

- 2008年 岐阜大学大学院連合農学研究科修了 博士(農学)
2008年 東京大学大学院農学生命科学研究科 特任研究員
2010年 神戸大学大学院農学研究科 学術推進研究員
2011年 日本学術振興会 特別研究員(PD-神戸大学)
2015年 鳥取大学農学部 講師

専門

生物有機化学/ケミカルバイオロジー

趣味

絵を描くこと

グローバルな今だからこそ 身近なことに意識を向ける

私は平成27年4月に農学部生物資源環境学科の講師として着任しました。専門はケミカルバイオロジー。化学と生物両方の知識を使いながら研究を進めていく分野で、植物の生理現象をコントロールしている化学物質を探したり有機合成をしたりしています。今は化学を主体に研究を進めていますが高校時代は生物学が好きで、大学では遺伝子の勉強をしたかと思っていました。しかし大学でいろいろな講義を聴いているうちに有機化学に興味

ましたし、講義の内容も高校までで学んできたことよりずっと広くて深かったためです。世界の広さは今でも痛感しその度に視野を広げる努力をしています。ですが、今は同時に足元も見直すようにしています。遠くの世界を見つめるほど視野は広がりますが、足元・自己が不安定では世界の荒波に飲み込まれて自分を見失ってしまうためです。それはグローバルな場に陥らず研究世界でも当てはまることで、最先端の情報ばかりに気を取られていると、身近な問題に意識が回らなくなってしまう。周りを見渡せば不思議なことはたくさんあります。そんな疑問に対してちゃんとした言葉で説明できるようにすることが今の目標です。学生の皆さんも大学生活を通して、視野を広げながらも自己を確立していってほしいと思います。

新入生ふれあい朝食会を開催

2016.4.11~15



新入生と語り合う豊島良太学長



ギターアンサンブル部の生演奏

鳥取キャンパス、米子キャンパスでそれぞれ「新入生ふれあい朝食会」を開催しました。この朝食会は、新たな環境で学生生活を始めたばかりの新入生に、友達づくりや朝食を習慣づける機会にしておらおうと毎年この時期に開催しているものです。

初日の4月11日、鳥取キャンパスでは新入生190名が食堂に詰めかけました。新入生は、教職員や先輩学生とテーブルを囲んで、様々な会話を楽しみながら朝食をとりました。食事中には、ギターアンサンブル部の学生が生演奏を披露して、朝食会を一層和やかな雰囲気にしていました。また、珍しい取り組みだとして地元の報道機関が取材に訪れ、新入生がこやかにインタビューに応じる姿が見られました。

朝食会は、鳥取キャンパスでは4月15日まで、米子キャンパスでは4月12日まで行われました。

平成28年度鳥取大学入学式を挙

2016.4.8



豊島良太学長式辞



新入生代表宣言

平成28年度鳥取大学入学式をとりぎん文化会館（鳥取市）で挙行了しました。今年度は、学部1,167名、大学院生366名が入学を許可されました。

豊島良太学長は、「志を大きく高く持ち、絶え間なく勉学に励み、弛み無い自己研鑽に努め、遅疑逡巡、付和雷同することなく確固たる自立した自己を作り、充実した達成感のある大学生活を送っていただきま

すことを願い、念じております」と激励しました。新入生を代表して、高信彩也香さん（地域学部）が、「今日の喜びを胸に、初心を忘れることなく勉学に励み、支えて下さる方々への感謝の気持ちを自らの言動に表して学生生活を送ることを誓います」と力強く宣誓しました。

COC+キックオフシンポジウムを開催

2016.3.20



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業の協定書締結



豊田庄吾 隠岐国学習センター長の基調講演

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)キックオフシンポジウムを開催し、約180人が参加しました。

鳥取大学のCOC+事業「学生と社会の相互交流による人材育成・地元定着促進プログラム」は、県及び県内全市町村並びに経済界、金融機関等と連携して学生の県内への就業意欲を促し、人口最少の「鳥取県」で地方創生に向けて活躍できる人材の育成を目指しています。

シンポジウムの基調講演では、石破茂地方創生・国家戦略特別区域担当大臣に大学等が地方創生に果たすべき役割について、また、隠岐国学習センター豊田庄吾センター長には、島根県隠岐郡海士町の公立塾で行われている先進的な人材育成の取り組みについてご講演いただきました。

また、シンポジウム終了後、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業協定」の締結式を行いました。県内の大学等と鳥取県及び県内全市町村の間で、事業の目標や相互の連携・協力などの取り組みについて協定を結び、事業が本格的なスタートを切りました。

「鳥取大学地域再生プロジェクト」成果報告会を開催

2016.3.8



プロジェクト成果発表



会場の様子

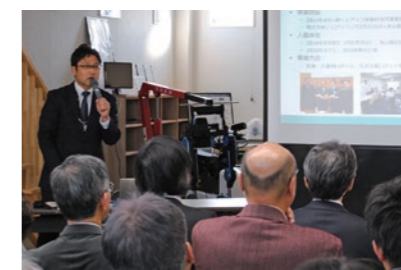
鳥取大学地域再生プロジェクト成果報告会を開催しました。鳥取大学では、地域学部を中心として、地域との連携により地域再生のための新たな教育研究モデルの構築をめざした文部科学省特別経費事業「地域再生を担う実践力ある人材の育成及び地域再生活動の推進」に平成25年度から取り組んできました。報告会は、プロジェクトの3年間の成果を発表し、関係者との意見交換を通じて、地域に貢献する教育研究システムのさらなる展開を推進しようと開催されたものです。

当日は9本のプロジェクトの目的や成果が発表され、会場に詰めかけた約140名の参加者が熱心に耳を傾けました。

報告会の最後に、「地域連携研究・人材育成ネットワーク」の発足式が行われました。本プロジェクトで培われた民間組織、自治体等と地域学部の連携を更に強め、地域課題研究や課題解決力のある人材育成を展開しよう立ち上げるもので、38団体が参加してスタートを切りました。地域学部が拠点となり、地域課題の解決を目指す取り組みのさらなる充実が期待されます。

鳥取大学・鳥取銀行連携セミナーを開催

2016.3.02



株式会社テムザック技術研究所 榎山康明社長の講演



ロボット見学会

鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー「産学連携による課題解決型次世代医療機器の開発～次世代ロボット技術と医療技術の融合による事業の展開～」を開催しました。セミナーは、鳥取大学と株式会社鳥取銀行による連携事業の一環として、産(企業)と学(大学等の研究機関)のマッチングを促進することを目的としています。

今回は、「医工連携」をテーマとして、株式会社テムザック技術研究所(米子市)を会場に開催しました。成長著しい医療機器市場への県内企業参入の支援、医療・福祉現場が直面する課題とその解決に向けた取り組み、さらには企業と大学の共同研究による医療ロボット実用化に向けた取り組みについて、行政、大学、企業それぞれの立場から講演しました。セミナーには産業界を中心に37名が参加し、熱心に聞き入りました。

また、講演終了後には、同社の開発ロボット見学会が開催され、ロボットの説明や電動車いす型ロボットの試乗が行われました。

工学部化学バイオ系学科で「日本酒講座」を実施

2016.1.22



会場の様子



日本酒のおいしい飲み方を体験

工学部生物応用工学科(現・化学バイオ系学科)で「日本酒講座」が行われました。講座は、消費が低迷している日本酒の魅力のアピールする取り組みを行っている広島国税局から提案があったもので、微生物を利用した物質生産について学ぶ同学科3年生の必修科目「応用微生物学II」の1コマとして行われました。

講師には、広島国税局酒類調整官の前田剛氏、鳥取県酒造組合の福羅隆元氏、鳥取県小売酒販組合専務理事の荻野正博氏をお迎えしました。前田氏から酒類に係る国税庁の任務や酒税法の概略、福羅氏から日本酒の製造方法、荻野氏からは日本酒のおいしい飲み方と、幅広く有意義な講義をいただきました。

また、講義終了後、引き続き日本酒試飲会が開催されました。講義室に鳥取県の日本酒15銘柄が用意され、学生たちが講義で学んだ日本酒の「おいしい飲み方」を早速体験。日本酒の魅力を実感するとともに地域の重要な産業に対する理解を深めました。

大学からのお知らせ

INFORMATION



正門からキャンパスを眺める

拡大図

2色のコントラストが美しい石版。歩車分離により、安全で歩きやすくなりました。

安全・安心な鳥取大学!!
快適に歩ける、キャンパスへ

鳥取キャンパス（鳥取市）では、平成28年4月から、正門から各学部へ続くメインストリートが歩行者専用化されました。
これまでは、歩行者の主動線であるメインストリートは車の往来も激し

かったのですが、構内環境整備工事により、自動車の専用入口を別途設けるなどして歩車分離を実現。また、通路にはキャンパスのムードに調和した2色の石版を美しいパターンで敷き詰めました。

鳥取大学を体験できる絶好の機会!!

7/23(土) 工学部 地域学部 鳥取キャンパス

7/24(日) 農学部 鳥取キャンパス

7/30(土) 医学部 米子キャンパス

詳しくは下記ホームページ及び携帯サイトに掲載予定です。

携帯 <http://daigaku.jc.toridai/>

PC <http://www.adm.zim.tottori-u.ac.jp/>

鳥取大学入学試験情報 検索



*写真は2015年の様子

オープンキャンパスを
開催します!!

2016夏

サークル紹介

しゅわっち（手話サークル）



副部長 にしざわ かずき 西澤 和希さん 医学部医学科4年

部長 おくの あいり 奥野 愛理さん 医学部医学科4年

手話は耳が聞こえない人たち（ろうあ者）の間や、ろうあ者と聞こえる人の間で使用される大切なコミュニケーション手段のひとつです。手話という言葉を知らない人はほとんどいないと思います。しかし手話がどういったものなのか、手話での表現の仕方を知っている人はごくわずかでしょう。

私たちしゅわっちは現在約60人の部員で週2回手話の勉強をしています。手話の勉強というと堅苦しいものを想像するかもしれませんが、テーマに沿って日常会話を手話で表現したり、ジェスチャーゲームなどの様々な遊びを取り入れたりしながら楽しく手話を学んでいます。

サークル活動にはろううの方も来てくださっています。覚えた手話を実際に使って会話をすることでより多くのことを学べ



錦祭のステージにて手話歌を披露している様子。

手話で会話ができたと喜びが手話を学ぶモチベーションにつながります。またしゅわっちは部員のほとんどが兼部をしています。運動部との兼部もとても多いです。様々な部活に入っている人たちと知り合えるのもいいところです。

他の部活と異なり目指す大会などはありませんが、錦祭（大学祭）のステージで手話歌を発表します。手話歌をみて入部を決めたという部員も少なくありません。手話歌というパフォーマンスがみなさんの手話への興味や学びきっかけになればいいなと思います。ぜひみなさん錦祭にお越しの際は手話歌を楽しんでください!



リーダーズ・ボイス

このコーナーでは、前号（48号）の読者アンケートに寄せられた読者の皆さんの声をお伝えします。誌面作りに活かしていきますので、風紋への感想やご意見などをお寄せください。



48号はこがよかった

特集1 「地域産業界の発展と鳥取大学への期待」

鳥取大学は、様々な方に「選ばれる大学」となるよう日々挑戦しています。本誌は、「鳥取大学ならでは」をたくさん取りあげて、読んだ後にみなさまの心に残る広報誌を目指していきます。みなさまの興味のあること、知りたいこと、ご感想をぜひお寄せください。（TN）

こんなご意見も

▼地域の発展は、鳥取大学の先進的な技術開発などの元気がパワーが大事だと考えます。大学が元気であれば、優秀な人材が集まり、また、優秀な企業も集まってくると思います。（60代、男性）

特集2 「世界への扉を開く Global Gatewayプログラム」

▼最近の大学はグローバルと言っておけば取り敢えず良いことでも思っているように感じますので、今回のような具体的なプログラムを見られたことで理解も深まりました。（50代、女性）

▼遠方の大学については、こういった広報誌などが大学を知りやすい情報になるため、大変ありがたいです。ホームページでの閲覧も、上位のパナーに置かれており、力の入れ具合が判ります。（50代、男性）

▼丁寧な編集がありがたいです。HPやフェイスブックも含めて、今後ともよろしくお願いたします。（50代、女性）

たくさんの方の思いが詰まった広報誌「風紋」です。鳥取県の方はもちろん、日本全国のみならずにも読んでいただき、鳥取大学を知ってもらいたい！という気持ちで制作しています。大学ホームページやフェイスブックでも、鳥取大学の「今」をお届けしていきますので、そちらもぜひご覧くださいー（TN）

編集後記

広報誌「風紋」をご愛読いただきありがとうございます。本号から表紙をはじめ誌面全体をリニューアルしました。いかがでしょうか？

さて、今回の特集では、本学における男女共同参画への取り組みをご紹介します。これからは、いかに女性が活躍できるか、輝き続ける環境を提供できるかが大切なことだと思います。本学としても教職員の意識改革のみならず、学生等のキャリア支援にも力を入れて行きますのでどうぞ注目ください。

また、社会貢献では、鳥取の水産物として有名なズワイガニのカニ殻から抽出した「キチンナノファイバー」を活用した事例を紹介しています。カニ殻から化粧品ができるなんて不思議ですね。更なる発展も期待できそうです。

「風紋」ではこれからも様々な情報を発信していきますので、これからの誌面作りのため皆様のご意見をお寄せいただければ幸いです。(T.N.)

大学からのお知らせ

INFORMATION

サイエンス・アカデミーのご案内

申込不要
受講料無料

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00
会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室 (鳥取市尚徳町101)
お問い合わせ 鳥取大学研究・国際協力部社会貢献課 TEL 0857-31-6777

テーマ 生物を学ぶ・生物に学ぶ
- 遺伝子からバイオミメティクスまで -

2016
6/11 土

テーマ
海洋生物に学ぶ
先端技術開発

講師
産学・地域連携推進機構
准教授 清水 克彦

2016
6/25 土

テーマ
細菌(バクテリア)
の泳ぎ
- 個体の運動、集団の運動 -

講師
工学研究科
教授 後藤 知伸

2016
7/9 土

テーマ
世の中に役立つ
微生物たち

講師
工学研究科
教授 大城 隆

信頼と笑顔

地域に感謝

move your heart

鳥取銀行は、お客さまの明るい未来と活力あふれる地域を創造する銀行を目指します。

共生の里づくり支援事業



鳥取砂丘の清掃活動



鳥取大学「鳥取銀行講座」



ネーミングライツによる地域支援



とりぎんバードスタジアム

とりぎん文化会館

TOTTORI BANK



青い鳥の銀行です。

鳥取銀行

鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験 0857-31-5061 ■研究・産官学連携 0857-31-5608 ■公開講座・社会貢献 0857-31-6777
■学生・学生生活 0857-31-5053 ■授業料納入 0857-31-5029 ■学生就職支援 0857-31-5456
その他はホームページ www.tottori-u.ac.jp/ask をご覧ください

風紋の読者アンケートに
ご協力ください

Webで回答できます

「風紋」の記事内容について、日々集まる皆様からの貴重なご意見を活用し、地域に身近で知的な情報誌となるよう努力してまいります。



鳥取大学
Tottori University

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon



鳥取大学広報誌 検索

編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2016年5月発行

小玉 芳敬 (委員長・地域学部) 山下 博樹 (地域学部) 西村 正広 (医学部) 塩崎 一郎 (工学研究科)
遠藤 常嘉 (農学部) 滝波 稚子 (大学教育支援機構) 山岸 大輔 (産学・地域連携推進機構) 西尾 瀧雄 (総務課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <http://www.tottori-u.ac.jp>

*本誌掲載の写真、図版、記事などの無断複写・転載を禁じます。

表紙題字：住川 英明 (地域学部)